

2022年度 年報



2023年3月

公益財団法人群馬県産業支援機構上海代表処
(群馬県上海事務所)

■沿革

群馬県では、「観光誘客の促進」「農畜産物等の販路拡大」「企業のビジネス展開支援」を三本柱として、2012（平成24）年3月、「東アジアの活力を取り込むための経済戦略」として群馬県国際戦略を策定し、2013（平成25）年4月、戦略推進のための海外拠点として上海事務所を設置した。当事務所は、中国（香港・マカオを含む）において本県経済の地位を高めるため、観光誘客、県産品販路拡大、県内企業のビジネス展開支援、本県情報の発信の4つを主な業務として活動を開始した。2014（平成26）年度から、要請があった場合には、台湾においても、観光プロモーションや旅行会社訪問、物産展出展や商談会参加等を行うようになった。

2020（令和2）年12月、新型コロナウイルス感染症の影響により、外交の基礎となる海外との往来が制限される中、これまでの国際戦略に基づく取組が困難になったことから、ニューノーマルの世界の中で、ハイレベルな人脈構築を目指す「地域外交の基本方針」を踏まえ、事務所運営方針の転換を図ることとなった。具体的には、①世界を見据えた上海市との関係強化、②ハイレベルな人脈構築、③新たな富を生み出すチャンスを掴む の3つのミッションが与えられた。

【3つのミッションと7つの取組】

ミッション1 世界を見据えた上海市との関係強化

- ①上海市との姉妹（友好）都市協定に向けたトップ会談の実現
- ②中国国内の高等教育機関等へのアプローチ

ミッション2 ハイレベルな人脈構築

- ③党有力者および地方政府の調査・研究
- ④外交候補リストの作成
- ⑤外交候補先とのコネクション構築

ミッション3 新たな富を生み出すチャンスを掴む

- ⑥進出県内企業や近隣自治体との連携強化
- ⑦現地情報の収集と効果的な情報発信

■活動状況

I 事務所利用状況

内 容	件 数	備 考
訪問件数	125	小売業者、旅行会社、県内企業 他
来所件数	94	県内企業、地方政府 他
（利用人数）	（324）	

※新型コロナウイルス感染対策として上海市全域で実施されたロックダウン（都市封鎖）のため、4月と5月の2か月間事務所は閉鎖したが、上海市外事弁公室との情報交換や販路拡大の取組などは、オンラインで実施した。

Ⅱ 業務別の状況

1 新たな取組方針に基づく3つのミッション

(1) 現状

3つのミッションを達成するために、①上海市との友好交流事業推進 ②さまざまな機会をとらえた多方面での人脈形成 ③関係者・関係機関との連携 に取り組んでいる。

○ 活動の重点方針

2021 年度に一年かけて築いた上海市外事弁公室との信頼関係に基づき、2022 年度は、同市との友好交流事業開始に注力した。

(2) 個別の業務内容

① 世界を見据えた上海市との関係強化

■上海市へのアプローチ

上海市外事弁公室主催の諸行事に積極的に参加し、本県のプレゼンスを高める取組を継続した。

そして8月26日、群馬県と上海市との第1回友好交流事業を実施するに至った。内容は、群馬県庁会場と崇明区会場をオンラインで結び、「環境保全」をテーマに双方の担当者が尾瀬と崇明島に関するプレゼンを行うというものである。

また3月22日には、同じく「環境保全」をテーマにした青少年交流の一環として、県立尾瀬高校と上海市実験学校東灘高中との間で友好交流を開始した。

学校間交流としては第1回目となる今回は、群馬県と上海市の紹介のほか、民族楽器演奏や踊りなどのパフォーマンスによりお互いのことに興味を持ってもらう内容とした。今後、尾瀬や崇明島における両校の環境保全の取組などをテーマに交流を継続する。

なお現在上海市外事弁公室は、12月に当所が取材のため崇明島のキャンプ場を視察する際、終日同行を申し出るなど、当所に対して非常に協力的である。

さらに情報発信の分野では、上海市商務委員会と協力関係を強化することとした。



群馬県庁と崇明島をオンラインでつないだ第1回交流



第1回交流では上海市外事弁公室の馬副主任が出席（中央）



尾瀬高校と上海市実験学校東灘高中との交流

■中国高等教育機関との関係強化

本県への留学経験者について、あらゆる人脈を駆使した結果5名の発掘へとつながった。引き続きその増加に取り組みながらネットワーク化を進め、情報発信や販路開拓、人脈作りなどの分野で当事務所への協力を促していく。

また、昨年度は大学関係者らとの人脈づくりに注力したが、長い間新型コロナの影響でキャンパス訪問が出来ない状態が続いていた。今後、訪問が解禁され次第順次開始する予定である。

さらに現在は、県立中央中等教育学校と上海市甘泉外国語中学との友好交流推進にも取り組んでいる。

② ハイレベルな人脈構築

■調査研究

市・省委トップ3について、引き続き調査・研究を行った。

③ 新たな富を生み出すチャンスを掴む

■県内進出企業との連携

地元地銀と合同で、県内進出企業訪問及び情報交換を行ったほか、県産品販路拡大に関するオンラインセミナーを開催した（後述）。

■他自治体との連携

新たな試みとして、大阪府、福井県、福島県等の上海事務所と合同で、上海跨境電子商務行業協会から講師を招き、越境ECに関する合同オンラインセミナーを開催することとなった（2023年度開催予定）。

■情報収集発信

上海を中心とした中国のトレンド等を県職員向けに伝えるための「上海・中国流行報告」を発行した。

また、公式ホームページへの記事掲載回数を増やしたほか、高崎だるまのプロモーションイベント開催時には、時事通信社上海支局に報道提供し「時事速報」に掲載されるなど、積極的な情報発信に取り組んだ。

（3）今後に向けた課題と方策

友好交流事業を軌道にのせながら上海市とのさらなる関係強化を図るとともに、トップ外交の準備を進める。

2 観光誘客の推進

（1）現状

中国からの訪日外客数は、2019年まで順調に増加を続け過去最高を記録したものの、2020年以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響により激減している。

■中国人訪日外客数（ビジネス客／親族訪問客等含む）（JNT0）（人）

年	2022	2021	2020	2019	2018	2017
年計	189,125	42,239	1,069,256	9,594,394	8,380,034	7,355,818

■群馬県での中国人宿泊者数（観光庁 宿泊旅行統計）（人）

年	2022 （速報値）	2021	2020	2019	2018	2017
年計	3,150	2,610	9,810	36,950	32,370	24,590

日本政府観光局(JNTO)によると、2022年の年間訪日外客数は3,832千人となった。6月10日より観光目的の入国受入れ再開や段階的な水際措置の緩和がなされ、特に、本格的な受け入れ再開を行った10月以降顕著な回復傾向見られたが、2019年比では10%程度となっている。

中国からの訪日については、新型コロナウイルス感染対策として行ってきた中国本土からの入国者への臨時の水際措置が、3月1日午前0時から緩和された。訪日観光客は、中国国内の感染収束が見込まれる4～6月期から本格復調すると予想されている。

JNTOでは、個人旅行の再開や入国手続き等の実用情報の的確な発信と併せ、これからの訪日観光の柱となるサステナブル・ツーリズム等の情報発信やMICE誘致等の取組を強化していくこととしている。

○ 活動の重点方針

2022年度は、①各種イベントの延期や中止が続く中、可能なものにはできるだけ出展する ②SNSにより知名度・認知度を向上させる ③旅行会社との関係を再構築する との方針で取り組んだ。

(2) 個別の業務内容

①観光イベントへの出展等

日本をテーマにした各種イベント等に出展し、一般旅行者へ向けて本県の観光PRを行った。

新型コロナウイルスの影響で中止・延期となる場合が多く、また上海市外に移動することができない時期もあるなど制約が多い中で、可能な範囲で出展した。

また、県産品販路拡大の取り組み中など、他の業務の中で観光PRができるときには、パンフレットを用いて可能な限りPRすることに努めた。

- ・「日中国交正常化50周年記念レセプション」(9月 青島市)
- ・「JAPAN FESTIVAL 雲南」(2月 昆明市)
- ・「ジャパンプランド成都」(3月 成都市)



日中国交正常化50周年記念レセプション(青島市)

②SNS による情報発信

中国人が情報収集に多用している SNS、微博（ウェイボ）と微信（ウェイシン／WeChat）により、観光情報発信を積極的に行った。

③旅行会社との関係再構築

新型コロナウイルスの影響により、具体的な誘客促進活動は困難な状況が続いているが、ゼロコロナ政策の終了を受けて、途切れていた旅行会社との関係を再度構築することに注力した。

【観光誘客活動実績】

内 容	件 数	備 考
事業所等訪問件数	6	
〃 来所件数	17	
観光展等出展件数	3	
ツアー造成件数	0	
ぐんまちゃん 活動延べ日数	0	メディアプロモーションから新しい着 ぐるみが未着

（３）今後に向けた課題と方策

①ツアー造成について

徹底して感染拡大を抑え込むゼロコロナ政策が終了し、人的往来の回復が見込まれるため、ツアー造成を再開する。

②2023 年度に向けた考え方

- ・中国の旅行会社との関係を維持するため、相互訪問や情報交換を継続的に実施する。
- ・東京からの近さを武器に、近年人気が高まっているキャンプの情報等も発信しながら、群馬の魅力を訴える。
- ・本県の知名度を向上させるため、SNS による情報発信をさらに強化する。

3 県産品販路拡大

（１）現状

中国では、価格が高いことは販路拡大の障害になりにくく、むしろ高所得者層が多いため価格が高くても良いものはほぼ確実に売れる、という市場の特性がある。

従って、価格以外の要素として、その商品のストーリー性が重要になる。例えば、今年度重点的にプロモーションを実施した高崎だるまについては、だるまの起源、眉が鶴で髭が亀を表しているというデザインの特徴、願掛け時の目入れの方法など

のストーリーを、しっかりと市場に訴求しながら販路拡大に取り組む必要がある。
逆に、ストーリーを描きにくい県産品については、営業活動においても売り込みが困難であり、販路拡大のハードルは高い。

(2) 個別の業務内容

①現地企業の紹介

県内事業者へ取扱商品に関心のありそうな現地商社・店舗を紹介した。特に今年度は、伝統工芸品高崎だるまの販路拡大に積極的に取り組んだ。

北京に拠点を置く会社が代理商になったほか、北京イトーヨーカドーでの「中国事業25周年祭」への出展や、伝統工芸青山 SQUARE 中国・重慶店でのプロモーション活動など、切れ目のない販路拡大活動を展開した。

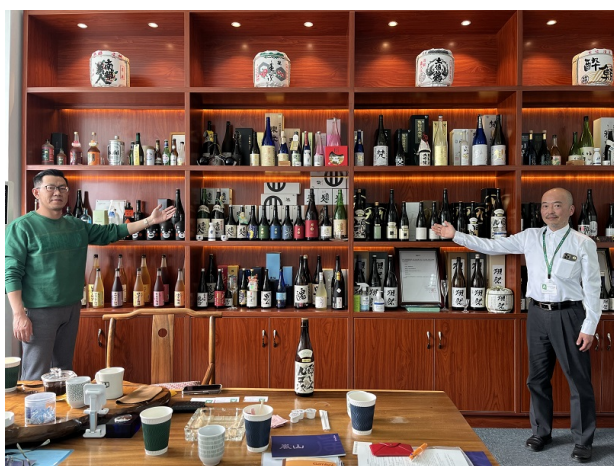
また、中国進出や販路拡大を検討する企業・団体を対象として、JETRO 及び地元地銀と合同で「中国経済の最新動向セミナー」をオンライン開催した。



「伝統工芸青山 SQUARE 中国・重慶店」でのプロモーションイベント

②輸入事業者等との関係構築

本県食品の輸入禁止措置の解禁に備えて、現地の輸入事業者等との関係構築を図った。特に日本酒卸売業者については、群馬の地酒を是非取り扱いたいという意向が強いため、今後は業者による群馬の酒蔵訪問を企画・実施するなど、その機運を盛り上げていく。



さまざまな種類の日本酒を扱う卸売業者との関係構築

【県産品販路拡大活動実績】

内 容	件 数	備 考
事業所等訪問件数	37	貿易、小売等企業関係者
〃 来所件数	16	
物産展等出展	3	
商談件数	10	県内進出企業、県内企業
照会件数	20	
取引に結びついた件数	5	

(3) 今後に向けた課題と方策

本県食品の輸入禁止措置について、台湾は2月に解除されたものの、中国本土については未だ見通しが立っていない。

解除後にすぐに対応をとれるよう、情報収集と事業者との関係づくりを継続する。

4 県内企業のビジネス展開支援

(1) 現状

ここ数年、中国進出に関する企業からの照会等の実績はなく、また報道によると、今年度当初に敢行された新型コロナウイルス感染症封じ込めのためのロックダウンにより、中国への新規進出の機運はこれまでになく低いとのことである。

今後当面は、新型コロナの影響により中断していた県内からの進出企業訪問を定期的に実施して、情報収集及び意見交換を進める取組を継続する。

(2) 個別の業務内容

①県内からの進出企業の直接支援

実績なし。

②県内からの進出企業との意見交換

新型コロナの影響で実施できずにいた進出県内企業訪問について、地元地銀と合同で再開した。

<訪問先企業>

◆上海市

科地克（上海）貿易有限公司（関東電化工業㈱）

上海愛麗絲服装輔料有限公司（㈱アイリス）

◆武漢市

三葉士林電機（武漢）有限公司（㈱ミツバ）

武漢三恵敏実汽車零部件有限公司（三恵技研工業㈱）

武漢愛機汽車配件有限公司（㈱エイチワン）

◆成都市

成都天興山田車用部品有限公司（㈱山田製作所）

成都正田車用部品有限公司（㈱正田製作所）

③中国企業の紹介

実績なし。

④群馬県人会での情報交換

上海群馬県人会（上州からっ風会）において、県内企業関係者や県出身者等と情報交換を行った。

【ビジネス展開支援活動実績】

内 容	件 数	備 考
事業所等訪問件数	17	県内進出企業、県内企業、関連企業
〃 来所件数	10	
相談・情報提供件数		
県等からの案件	0	
企業からの直接案件	2	
商談件数		
県等からの案件	0	
企業からの直接案件	0	
取引に結びついた件数	0	

（３）今後に向けた課題と方策

新型コロナの影響で、長い間県内進出企業訪問ができずにいたが、ゼロコロナ政策

の終了を受け、今後は積極的に訪問して意見交換を行う。

また、引き続き現地ネットワークを活かして、法律、会計、人材確保等、適切な情報提供及び支援をしていく。

5 本県情報の発信

中国では、中国独自の SNS である微博（ウェイボ）や微信（ウェイシン／WeChat）の利用者が多いことから、これらを活用して頻繁に読者が興味を引きそうな情報を発信するとともに、フォロワー数を増やすため、プレゼントキャンペーンやイベント時の登録呼びかけ等を実施した。

今後は、事務所 HP や本県の観光 HP への誘導を工夫するとともに、HP 自体のコンテンツなども見直ししながら、さらに効果的な情報発信に取り組む。

【情報発信活動実績】

内 容	件 数	備 考
事務所ウェブサイト更新数	1 7	
微博更新数	3 2 7	
微信更新数	1 1	
ウェブサイトアクセス数	2 3 , 9 3 6	年間合計
微博ファン数	5 8 , 4 9 1	前年比－ 3 0 0
微信ファン数	8 , 5 2 7	前年比＋ 2 6 5
その他情報発信回数	2	
マスメディア等への露出回数	6	

6 友好交流事業等

（１）中国地方政府との交流推進

当所と戦略協議覚書を締結している蘇州市相城区の関連諸行事に、積極的に参加した。

なお、同区は太田市との友好交流を希望しているため、現在当所で双方の調整を行っている。

（２）民間団体との交流推進

日本への留学経験がある中国人らによる「南翔中日早朝文化活動」、上海市貴州商会主催の「新春国際文化懇親活動」、友聯中日青少年交流聯合会主催の「２０２３年度中日友好賞桜活動」等、民間団体主催のイベント等に積極的に参加し、本県の PR をして交流を深めた。

いずれの活動においても、教育や医療、食品流通、旅行業などに携わる参加者と新たな関係づくりができ、事務所の他の業務にとっても有益な結果となっている。

■事務所概要

名 称 群馬県上海事務所

(登記上の正式名称：日本公益財団法人 群馬県産業支援機構上海代表処)

所在地 〒200336

中国上海市長寧区延安西路 2201 号 上海国際貿易中心 2410 室

TEL +86-21-5290-6218 FAX +86-21-5290-6905

E-mail gunma.pref@gunmash.cn

職 員 3 名 (日本人 2 名、中国人 1 名)

所 長 土橋 徹

副所長 中野 亜希子

秘 書 鄒 艷苗

